



読字 松原田 親

No. 631

2011/3/5

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒113-0045 東京都文京区  
音羽1-1-1 第1学生会館3階

日中友好協会  
岡山支部  
〒700-8256  
岡山市東区3-8-30 511  
TEL: 0861272-3010  
郵便番号11所  
01250-0-3835

日中友好協会  
倉敷支部  
〒712-8911  
倉敷市遊島中央1-8-4  
(宮地方)  
TEL/FAX: 0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ  
http://rizhong.web.infoseek.co.jp  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp



## 尖閣諸島の領有根拠よくわかった

### 平和的解決をのぞむ

#### 倉敷第5回中国文化講演会

2月19日、倉敷市民会館で開かれた倉敷支部の第5回国問題文化講演会「は、みんなの関心が高い 尖閣諸島」問題がテーマだったので活発な質疑応答や討論で時間切れになるほどでした。

理事最年少の福田広史さんの司会ではじまり、大森支部長のあいさつに続いて山縣武次郎理事から「最近の中国事情」が報告されました。そしてメインの「尖閣諸島問題」の講演に移りました。講師は松田准一さん（日本共産党副委員長）。



第5回中国問題文化講演会の会場

て三つの領土問題があると切り出し、①千島問題は戦後処理を誤って旧ソ連が不当に奪ったものと指摘、②竹島問題は歴史的には日本領土の根拠があるが、日本が朝鮮を植民地下においていた経過もあり、両国共同で歴史検証を行う必要があると述べました。そして3番目の尖閣諸島問題に入り、尖閣諸島は歴史的にも国際法上からも日本の領土であることは明らかだとし、尖閣諸島の領有をめぐる歴史的経過と国際法上の根拠を明らかにしました。

そして中国側の主張に反論しました。最後に、この尖閣諸島の領有をめぐる紛争の解決のために、日本政府が道理を尽くして中国政府と国際社会に主張することが必要だと強調しました。また、今後も事態をエスカレートさせたりすることなく、冷静な話し合いであくまで平和的に解決することが重要だとしめくりました。

その後質疑討論に移りました。質疑では、話し合いによる平和的な解決は時代遅れではないか、日本も中国もお互いに

にゆずらない中で、平和的な解決はできるのか」などが出ましたが、松田さんは、全面解決には時間がかかるが、あくまで道理を尽くして平和的な解決が大切」と答えました。

### 尖閣諸島問題をめぐる1問1答

尖閣諸島が国際法上も歴史的にも日本固有の領土だということがよくわかった」などの感想とともに、いろいろな角度から質問が出され活発な質疑応答となりました。そのなかから、いくつかの質疑応答を紹介します。

**Q** 平和的にねばり強く話し合うというが、力を背景にしない問題は解決できないのでは？

**A** 今日の世界は、中国にしろアメリカにしろ、いずれの大国も力づくで政治を動かすことができないう情勢になっています。平和的な解決以外の方法といえば、力づくの解決、戦争による解決ということになります。しかし、第2次世界大戦後の世界の動きをみても戦争による紛争解決はできなくなっています。以前、国境をめぐる中ソ紛争、中越紛争、印パ紛争などいくつかの武力紛争がありまし

た。しかし、これらのいずれの紛争も戦争で決着することはありませんでした。最後は話し合いによる解決となりました。

**Q** 意見の違いや行き違いが起ころうとしても、問題をすぐに政治問題にすることを戒め、実務的な解決のルールにのせるといわれますが、具体的にはどういうことですか？

**A** 国と国との間で、あれこれの意見の違いが起ころうとはありえます。その時に大事なことは、お互いに事態をエスカレートさせない努力を強め、緊張を高める対応を避け、冷静な言動や対応をおこなうことです。政治的思惑から国民感情をおおき、緊張を高めたり、故意に事態をエスカレートさせることをさして「政治問題にする」としているのです。

そうではなく政治的思惑を排し、国際ルールにのっとって、あくまでそのルールの上で解決をはかることをさして「実務的な解決のルールにのせる」といっているのです。今度の問題について言えば、日本政府は尖閣諸島

が歴史的にも国際法上も日本固有の領土であることを中国と国際世論にたいして道理をつくして説明することが大事です。

また、中国政府は事態をエスカレートさせたり、緊張を高める対応を避け、冷静な言動や対応をおこなうことが必要です。その上で国際ルールにのっとり解決をはかることが大事です。

**Q** 中国は軍事力を強め、航空母艦まで建造して権益を守ろうとしています。日本が領土を守るには自衛隊を尖閣諸島方面に派遣することは当然ではないでしょうか。

**A** 力に対して力で対抗するというのは、事態をますますエスカレートさせるだけです。中国との領海問題をめぐっては、日本

との関係だけでなくベトナムや東南アジア各国の間でも同様の問題があります。これらの国々とアジアの各国は軍事力では中国にかなわないということもあり、憲法9条をもつ日本が平和的な方法で尖閣諸島問題を解決することを強く望んでいます。それは、自分たちの国がかかえる領土問題をも平和的に解決する道を開くからです。だからこそ、これらの国々や世界の国々は、日本が平和的に問題を解決をはかろうとすれば大きな味方になるでしょう。世界的情勢が平和の流れを強めているからこそ、憲法9条が何よりも大きな力になり、平和の流れこそ世界の主流となっているのではないのでしょうか。

## 目からウロコの伝統文化

江戸文化のなかで、もっとも眉つばなのは「武士道」であり、「愛国心」である。大事な江戸の伝統のひとつは「好色」で、もうひとつは「一揆」である。「好色」とは男にも女にも使われる、非常に評価の高い言葉であり、「一揆」は複数人間が一緒に動くこと、運動を意味する。フランスには革命やレジスタンスの歴史があるが、日本にも負けず劣らず運動や反乱の歴史がある。以上は目からウロコの引用。田中優子法政大学教授の巻頭エッセイ(『いつでも元気』3月号MIN・IREN)から。

竹内和夫



# 皆さんへ ありがとう！

## 馬 小菲

2月の6日に私が担当させていただいている日中友好協会岡山支部の中国語の講座の皆さんをはじめ、内モンゴル旅行参加者、日中岡山の理事の皆さんも参加で、高島公民館にて、中国旅行の上映会をしました。

皆さんに中国語だけではなく、中国の文化、習慣にも触れるチャンスだと思い、皆さんから提案があつて、実現した次第です。

月曜日クラスの近藤さんがお忙しい中、いろんな編集技術を使い、きれいな写真を流してく

ださいました。火曜日の福岡さん、亀鷹さん、説明を入れながら、写真の説明をしてくださいました。そして、幹事さんの佐々木さんがチラシまで作ってくださいつて、理事の真田さんも連絡など取ってくださいつて本当にありがとうございます。

また昼ごはんのお手伝いをしてくださいつた太田さん夫婦にも、本当に感謝しています。

昼間クラスの笠井さん、岡崎さん、貝吹さん、山上さん、西森さん、教室がまだ始まったばかりなのに、参加してくださいつてありがとうございます。



中国語講座交流会 高島公民館 中央の2人が馬さんのご両親

そして、今回、両親も参加させていただきました。皆さん暖かく迎えてくれて、本当にありがと

水曜日の赤木さんまた次回ぜひ夜の部も、堀さん、今度地図を渡しておきます。金曜日の中新さん、今度写真もよろしくお願ひします。

そして、竹内先生、稲葉さん、今度上映会にもぜひぜひ。そして、坪井さん、袈裟行さん、宇垣さん、河井さん、わざわざありがとうございます。

そして、今回、両親も参加させていただきました。皆さん暖かく迎えてくれて、本当にありがと

## あこがれの香格里拉(ジャングリ)

①

真田紀子

うございました。父母の歳の中国人、正直、日本に対して、敬遠している人もいます。しかし、「二カ月の間、いろんな方がいろんな形で歓迎してくださいつて、いろんなところから本場の日本を感じる」とでき、すごく満足している」と両親の口癖になっています。

ていけます。皆さんの応援があつたからこそ、なんでも乗り越えられます。これから、もっともつと頑張つて、もっともつと皆さんに恩返しできるように、いろんなことに挑戦して、周りに役立てるようにと思つていきます。これからもよろしくお願ひします。

少し時間がたちました。昨年7月24日から8日間、雲南省のシーサンパンナと香格里拉の旅に出かけました。

ウイキペディアによると、ジャングリはイギリスの作家ジェームズ・ヒルトンが1933年に出版した小説『突かれた地平線』に登場する理想郷(ユートピア)の名称。ここから転じて、一般的に理想郷と同義として扱われている。」と載っています。

その理想郷として、雲南省の中甸が改名して香格里拉となったようです。

今回、香格里拉を旅の目的地として選んだのは、そのユートピアとしてではなく、場所の高さと山(梅里雪山、6740mの秀峰)です。残念ながら天気が悪く梅里雪山は見えませんでした。高さが(3270m)は体感してきました。



梅里雪山

## 馬小菲さんのご両親 自宅へ招待してお茶会

小林軍治

2月4日、馬さんのご両親を拙宅に招待しました。私の妻の指導のもと馬さんの御点前で、両親と私がお茶をいただきました。お母さんは終始ニコニコ、お父さんは、料理を食べだしてから元気になり、私に中国語で話しかけてきました。馬さんの通訳がなければ会話になりません。中国語がんばるうかな！

お父さんは写真が好きなようで一人ひとりと記念写真をとりました。うれしかったこと、ご両親が孫の「心」の写真を見てかわいいと言ってくれたこと。爺ばかかな！



前列左から妹尾さん、妻、馬さん、後列 馬さんのご両親

## 仲間づくり推進コーナー

後楽館高校に生徒の感想文が載った「日中おかやま」を届けました。高社研顧問の先生が学習会のお礼にといつて1部とつてくれることになりました。みなさん、仲間を増やしましょう。

## パンダが来た

上野動物園にパンダがきた。再びのパンダで日中間のわだかまりが消えてお互いの理解が深まるとういのですが。日中友好の架け橋になることを願っています。

次回の新聞送付作業は3月11日(金)午後1時半〜民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

小林和  
竹内袈  
坪井深  
井垣三